

国立国語研究所学術情報リポジトリ

〈著書紹介〉 金澤裕之,相澤正夫
編『大正・昭和戦前期 政治・実業・文化
演説・講演集-SP盤レコード文字化資料』

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-10-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 相澤, 正夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00000794

金澤裕之, 相澤正夫 編

『大正・昭和戦前期 政治・実業・文化 演説・講演集
— SP 盤レコード文字化資料』

2015年4月 日外アソシエーツ A5判 450ページ 12,000円+税

相澤 正夫



1. 編集の経緯

書名のとおり、「SP 盤レコード」に遺された、「大正から昭和戦前期」の「政治家・軍人・実業家・文化人等」の「演説・講演」を、言語研究の専門家が可能な限り忠実に文字起こし、演者ごとに収録した「文字化資料集」である。大正から昭和戦前期を含む 20 世紀前半の時代、音声の記録媒体の主役は SP 盤レコードであったが、このような録音資料については、近代語研究に新たな展開をもたらす可能性が指摘されている（金澤 2015a, b）。

今回、文字化資料を作成する契機となったのは、芸能史研究家・岡田則夫氏の提供・編集・監修により、2010年5月に『SP 盤貴重音源 岡田コレクション』（日外アソシエーツ）がデジタル音源集として販売されたことである。録音時間の総計が 18 時間余りに及ぶ大量の SP 盤レコード音源は、このデジタル化により一気に 21 世紀の現代に蘇ったと言ってよい。日本語研究の立場からすれば、資料的価値の指摘はあったものの容易に近づけなかった資料群が、活用可能な新規資料として発掘しなおされたのである。

文字化資料の作成は、国立国語研究所の共同研究プロジェクト「多角的アプローチによる現代日本語の動態の解明」（基幹型、リーダー：相澤正夫）の一環として行なった。漢字仮名交じりによる文字化は、プロジェクト・メンバーの金澤裕之が一貫して担当したが、正確を期するための聴き直し作業には、相澤正夫ほか、メンバーの尾崎喜光、金愛蘭、田中牧郎、新野直哉、松田謙次郎の各氏が分担して協力した。結果、約 18 時間の音声資料から約 40 万字分の漢字仮名交じりテキストが、新たな言語資源として産み出された。本書は、その主要な部分を収める抜粋版であり、「読める資料」としても編集に意を用いた。

2. 内容と構成

収録した演説・講演は、89 名の演者による 135 編である。SP 盤レコードの録音時期を「大正～昭和初期」「昭和 10 年頃以降」に大別し、次に「政治家」「軍人・官僚」「実業家」「文化人・宗教家・ジャーナリストなど」に分類、その中は演者の五十音順に配列した。その全容は次のとおり。（）内の数字は、その演者の演説・講演が 2 編以上の場合の数を示す。

◆大正～昭和初期〔56 名, 88 編〕

【政治家】犬養毅 (2), 井上準之助 (2), 宇垣一成, 内田良平, 大隈重信, 岡田啓介 (2), 尾崎行雄 (3), 木下成太郎, 木村清四郎, 小泉又次郎, 後藤新平, 阪谷芳郎, 桜内幸雄,

島田三郎, 高橋是清, 田中義一 (2), 頼母木桂吉, 永井柳太郎 (6), 鳩山一郎, 浜口雄幸, 広池千九郎, 町田忠治 (2), 松岡洋右 (2), 松田源治, 間部詮信, 武藤山治, 森恪, 山道襄一, 芳澤謙吉, 若槻礼次郎 (2) 【軍人・官僚】小笠原長生 (2), 多門二郎, 東郷平八郎 (5), 東條英機 (4), 長岡外史 (2), 秦真次, 松井茂 【実業家】 洪沢栄一 (3), 津下紋太郎, 成瀬達 (3), 弘世助太郎, 牧野元次郎 (4) 【文化人・宗教家・ジャーナリストなど】 青木庄蔵, 大谷光演, 賀川豊彦, 加藤直士, 菊地寛, 佐々木清磨, 下田歌子 (2), 杉村楚人冠, 高田早苗, 高原操, 田中智学, 野間清治 (2), 穂積陳重, 山室軍平

◆昭和 10 年頃以降 [33 名, 47 編]

【政治家】 秋田清, 麻生久, 安達謙蔵 (2), 安部磯雄, 有馬良橘, 岸本綾夫, 近衛文磨 (3), 斎藤実, 重光葵, 田澤義鋪 (2), 徳川家達, 永田秀次郎, 中野正剛 (3), 林銑十郎, 増田義一, 山本悌二郎, 米内光政 【軍人・官僚・実業家】 加藤寛治, 古田中博, 東京市情報課 (2), 東京市報道課 (2), 平出英夫 (2), 林桂, 星一, 矢野恒太 【宗教家・ジャーナリストなど】 佐藤範雄, JOBK アナウンサー, 竹脇昌作 (5), 徳富猪一郎, 鈴木珪寿, 服部三智磨, 丸山定夫 (2), 和田信賢

3. 今後の活用に向けて

音源の収録時期と対象ジャンルから見て, 「20 世紀前半の公的な硬い言い回しの口語資料」として, まずは日本語研究への多角的な活用が期待される。一読すれば分かるように, 忠実な文字起こしにより, 話者の考え方や思想ばかりでなく, 言葉遣いや話し方の特徴まで読み取ることができるからである。さらに, 専門的な立場からの解説として, 「文字化資料としての性格」(金澤裕之), 「歴史的資料としての価値」(岡田則夫) の 2 編を収録し, また, 演者ごとに簡単なプロフィールを付しているのだから, 背景的な情報も併せて活用することができる。编者としては, 本書が, 言語研究の枠を超えて, 例えば近現代の歴史研究をはじめとして幅広く活用されることを願っている。

なお, 本書は 2015 年 5 月末付けで日本図書館協会の選定図書に選ばれた。

●参考文献●

- 金澤裕之 (2015a) 「録音資料による近代語研究の今とこれから」『日本語の研究』11(2): 133-140.
 金澤裕之 (2015b) 「明治末・大正・昭和前期の SP レコード資料一覧—東京落語・大阪落語・演説講演分—」『日本語の研究』11(2): 141-146.

相澤 正夫 (あいざわ・まさお)

国立国語研究所時空間変異研究系教授。文学修士(言語学)(東京大学)。国立国語研究所研究開発部門長を経て, 2009 年 10 月より現職。

主な著書・論文: 『現代日本語の動態研究』(編著, おうふう, 2013), 『外来語研究の新展開』(共編著, おうふう, 2012), 『分かりやすく伝える 外来語言い換え手引き』(共編著, ぎょうせい, 2007), 『ケーススタディ日本語の語彙』(共編著, 桜楓社, 1989)。

社会活動: 日本語学会評議員, 日本音声学会評議員, NHK アクセント辞典改訂専門委員。